

ヤマシンフィルタ株式会社 2018年3月期 決算説明会

～新素材の展開によって総合フィルタメーカーへの躍進を図る～



証券コード：6240
ヤマシンフィルタ株式会社
2018年5月22日

目次

I

2018年3月期実績/2019年通期計画

P.3

~市場環境は想定通り堅調 本業となる油圧フィルタ事業に死角なし~

II

売上拡大に向けての取り組み

P.25

~次世代モデルへの搭載を見据えた提案型営業の深耕~

III

当社の中期的な方針

P.32

~事業ポートフォリオの拡大と筋肉質な企業体質への進化~

2018年3月期実績/2019年通期計画

~市場環境は想定通り堅調
本業となる油圧フィルタ事業に死角なし~



1. 2018年3月期 決算概要



2018年3月期 決算ハイライト

売上・損益

売上高	13,168百万円 前年同期比 31.6%増収
売上総利益	6,074百万円 前年同期比 36.1%増益、粗利率46.1%、前期比1.5%改善 (粗利率改善内容:売上増加 1.3%、PAC17 原価削減額 136百万円)
営業利益	1,910百万円 前年同期比 99.5%増益 前期比4.9%改善 (営業利益率改善内容:売上増加 3.6%、PAC17 販管費削減額 44百万円)
純利益	1,249百万円 前年同期比 95.2%増益

セグメント状況

ライン品・補給品別セグメント状況

ライン品	中国市場・国内市場・アジア市場・北米市場の需要増加により、対前年同期比39.6%増収
補給品	中国市場・国内市場・アジア市場・北米市場における稼働時間の増加により、対前年同期比31.7%増収
その他売上	
プロセス品	国内向け新規採用品の増加等により、対前年同期比5.6%増収
産業製品	国内向け主要得意先売上増加等により、対前年同期比10.8%増収

2018年3月期 決算ハイライト

地域別セグメント状況

地域別セグメントの状況

日本	企業収益堅調、設備投資増加、需要は前年を上回る
北米	インフラ整備やエネルギー関連投資により、需要増加
欧州	ドイツを中心にした需要が堅調に推移
東南アジア	各国の経済成長に伴うインフラ投資を中心に需要増加
中国	インフラ投資拡大に伴う建機需要の大幅な増加が継続

販売管理費

- 売上の増加を主因にPAC17による経費削減などにより、販売管理費比率31.6% 前年比3.4%改善

為替変動の影響

- 連結グループ内為替マリーにより、為替リスクは極めて軽微

2018年3月期決算サマリー（前期比） -YTD-

- 各国の堅調なインフラ投資などを背景に、前期比増収
- PAC17実施による原価削減により増益を達成

（単位：百万円）

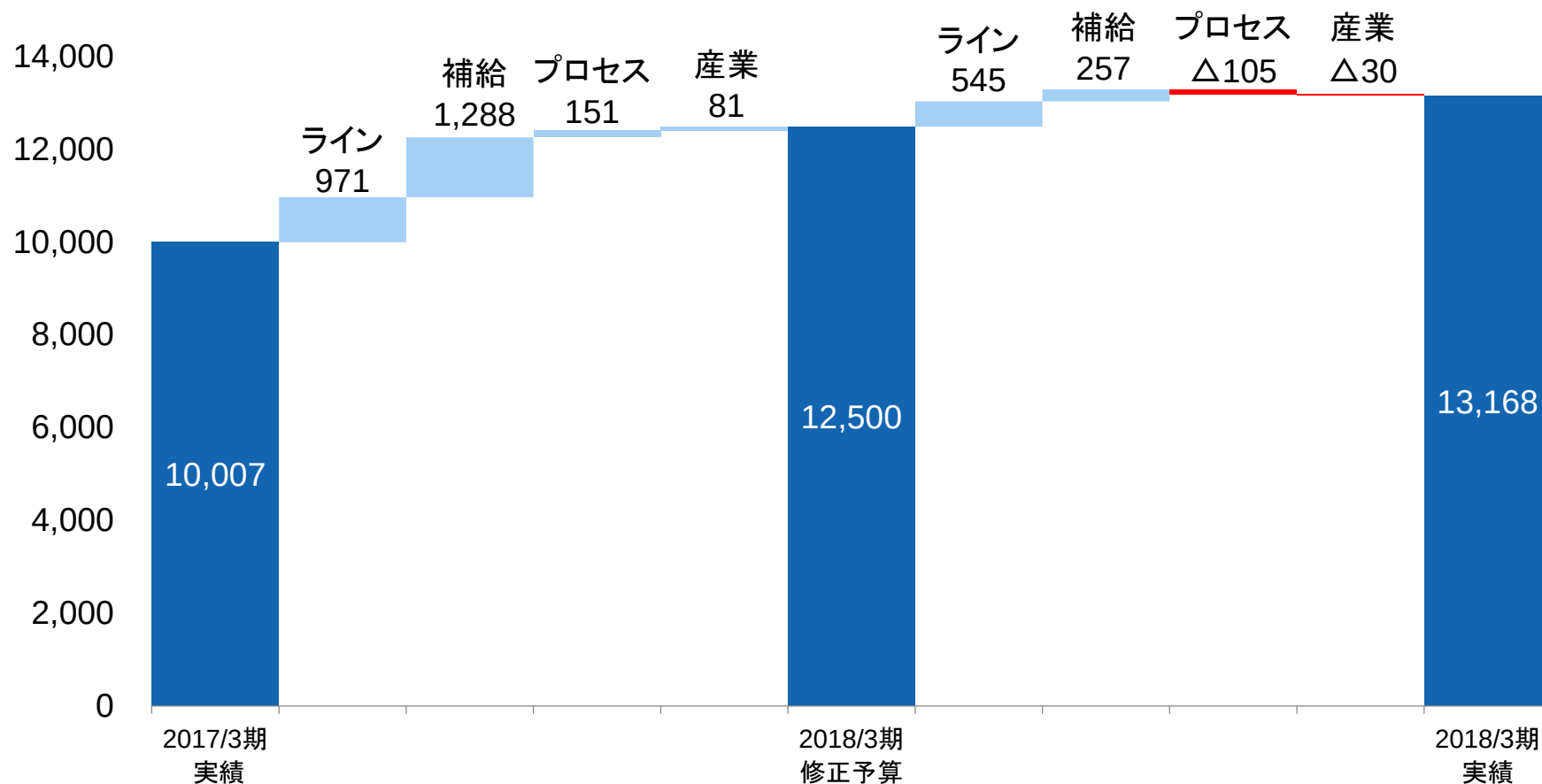
	2017/3期 実績	2018/3期 実績	増減	
			金額	%
売上高	10,007	13,168	3,160	31.6%
営業利益	957	1,910	952	99.5%
営業利益率	9.6%	14.5%	4.9P	
経常利益	934	1,824	890	95.3%
経常利益率	9.3%	13.9%	4.5P	
当期純利益	640	1,249	609	95.2%
純利益率	6.4%	9.5%	3.1P	

為替レート AR USD	108.4	110.9	2.5	2.3%
EUR	118.8	129.7	10.9	9.2%

売上高の増減要因（前年比較） -YTD-

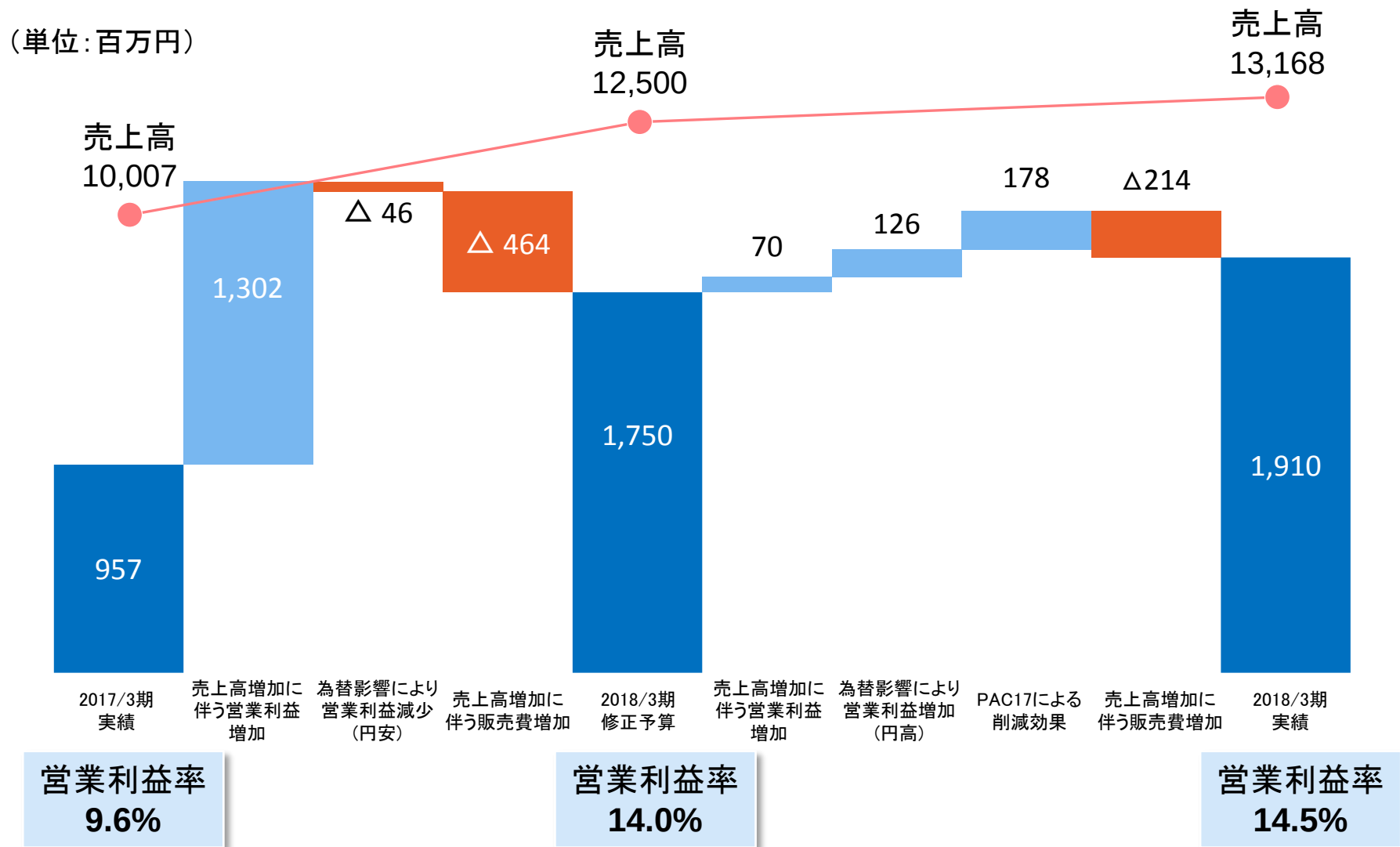
売上高推移

（単位：百万円）



※連結調整項目は建機用フィルタに含めて表示しております。（有価証券報告書開示基準）

営業利益の増減要因(前年比較) -YTD-



セグメント情報（製品別）（前期比） -YTD-

- ライン品：各国の堅調な市況、インフラ投資による新車需要増加
- 補給品：建機累積稼働台数増加に伴い、稼働時間増加

	2017/3期 実績			2018/3期 実績			増減		
	数量 (千本)	金額 (百万円)	%	数量 (千本)	金額 (百万円)	%	数量 (千本)	金額 (百万円)	%
建機用フィルタ	4,187	8,705	87.0%	5,885	11,768	89.4%	1,698	3,063	35.2%
ライン品	1,727	3,825	38.2%	2,545	5,342	40.6%	818	1,516	39.6%
補給品	2,459	4,879	48.8%	3,339	6,425	48.8%	880	1,546	31.7%
産業用フィルタ	167	475	4.8%	214	526	4.0%	47	51	10.8%
プロセス用フィルタ	249	826	8.2%	271	873	6.6%	22	46	5.6%
売上高合計	4,604	10,007	100.0%	6,372	13,168	100.0%	1,768	3,160	31.6%

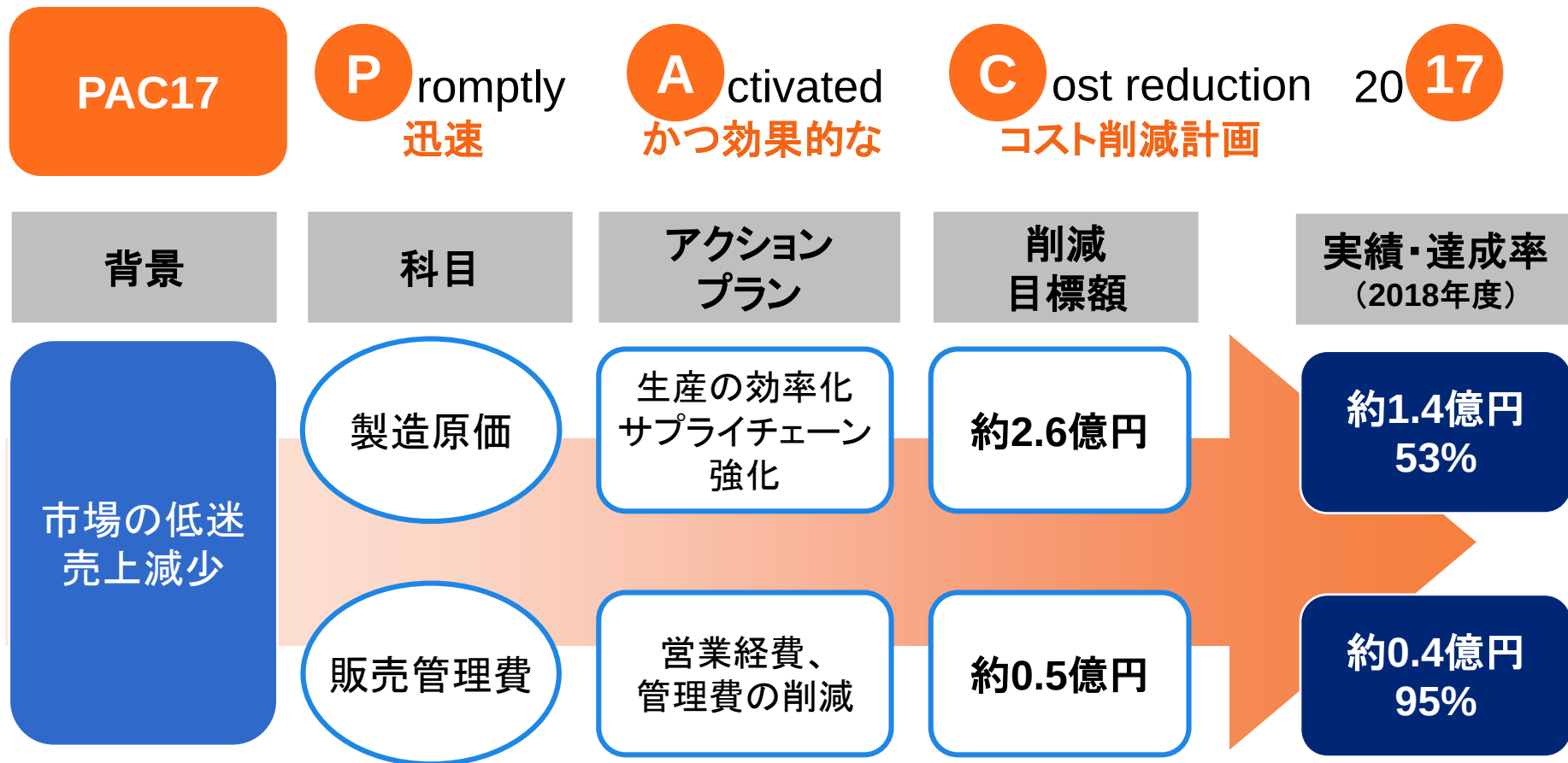
セグメント情報(地域別)(前期比) -YTD-

	2017/3期 実績			2018/3期 実績			増減		
	数量 (千本)	金額 (百万円)	%	数量 (千本)	金額 (百万円)	%	数量 (千本)	金額 (百万円)	%
国内	2,651	5,198	51.9%	3,306	6,443	48.9%	654	1,245	24.0%
北米	645	1,712	17.1%	1,016	2,201	16.7%	371	488	28.6%
中国	289	948	9.5%	807	1,753	13.3%	518	804	84.9%
アジア	573	1,174	11.7%	713	1,522	11.6%	140	348	29.6%
欧州	415	978	9.8%	502	1,204	9.2%	86	225	23.1%
その他(中東他)	29	△ 5	△0.0%	26	42	0.3%	△ 3	47	-
売上高合計	4,604	10,007	100.0%	6,372	13,168	100.0%	1,768	3,160	31.6%

(注) 当社の請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます

収益性の改善 / 振り返り PAC17

- 調達先変更に伴う客先承認遅延等の影響により原材料費削減目標未達
19.3期へ持ち越し



2018年3月期 貸借対照表

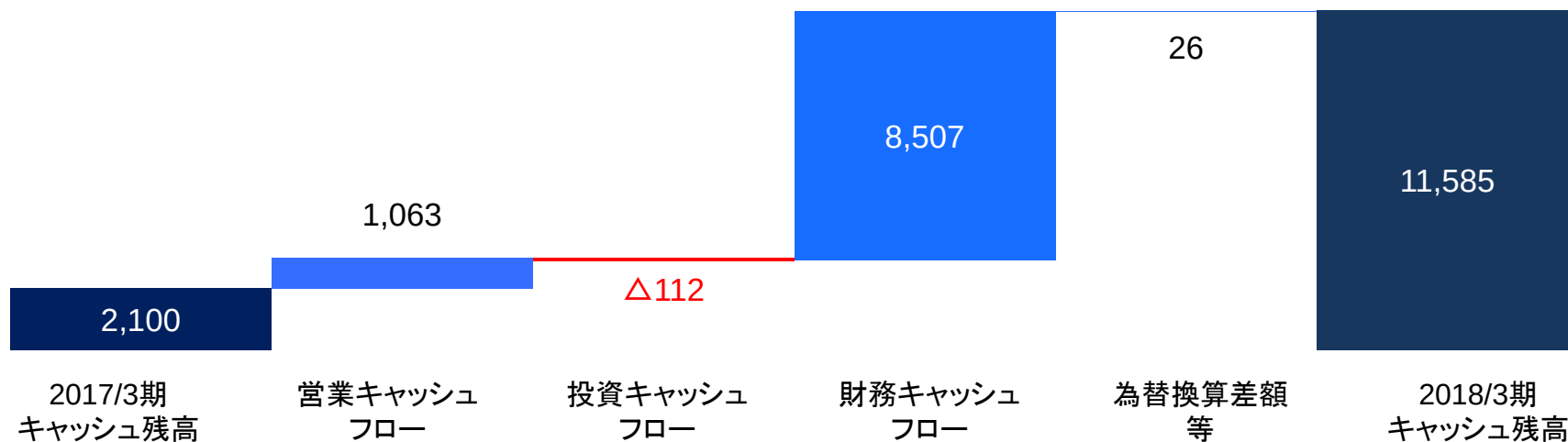
■ 中期的な成長投資のため資金調達(増資)を実施(92億円調達)

(単位:百万円)	2017/3期 期末	2018/3期 期末	増減率
流動資産	6,695	17,197	156.9%
現金・預金	2,263	11,619	413.4%
受取手形及び 売掛金	2,480	3,365	35.7%
商品・製品 & 原材料・貯蔵品	1,457	1,799	23.5%
その他	493	413	△16.3%
固定資産	3,462	3,567	3.0%
有形固定資産	1,272	1,653	30.0%
無形固定資産	292	412	40.9%
投資その他資産	1,897	1,501	△20.9%
資産合計	10,158	20,765	104.4%

(単位:百万円)	2017/3期 期末	2018/3期 期末	増減率
流動負債	2,374	2,969	25.1%
支払手形及び買掛金	1,085	1,517	39.8%
短期借入金 1年以内返済 社債・長借	500	350	△30.0%
その他	788	1,101	39.7%
固定負債	1,131	797	△29.5%
社債	600	400	△33.3%
長期借入金	150	-	-
退職給付に係る負債	173	175	0.7%
その他	207	222	7.0%
純資産合計	6,652	16,999	155.5%
負債純資産合計	10,158	20,765	104.4%

*自己資本比率	65.5%	81.9%
---------	-------	-------

2018年3月期 キャッシュフロー

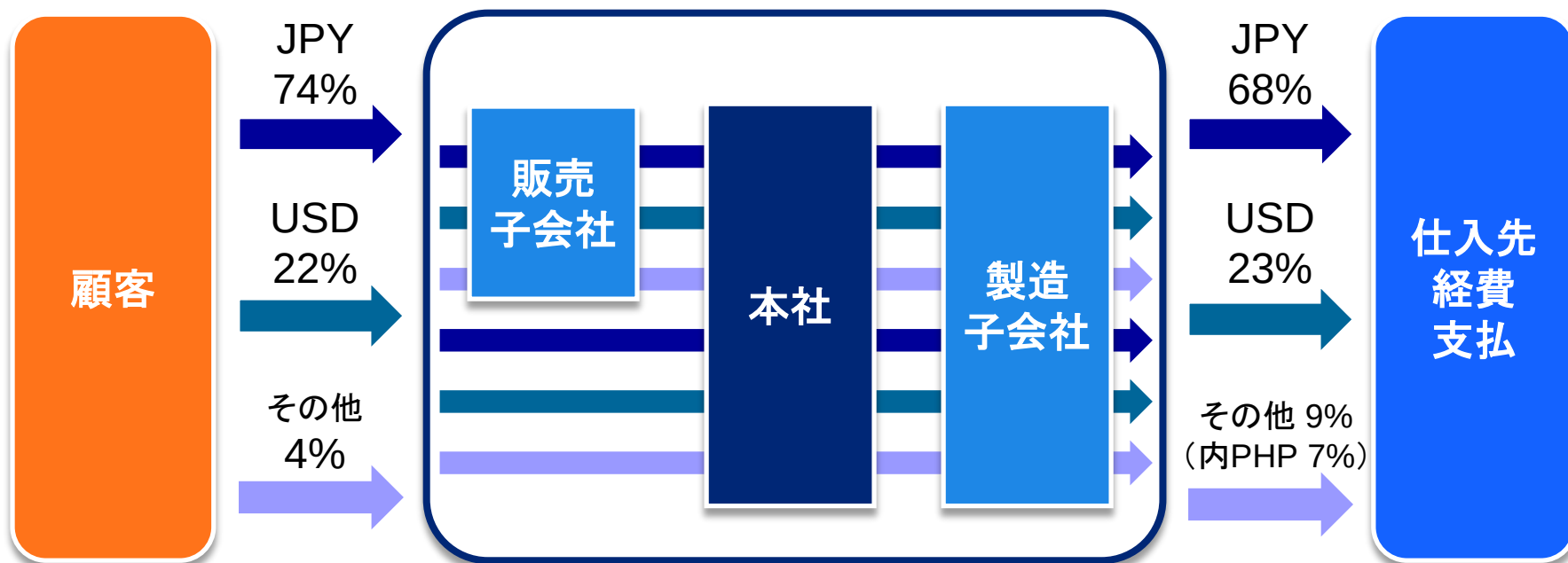


	2017/3期	2018/3期
(単位: 百万円)	累計金額	累計金額
営業活動によるキャッシュフロー	952	1,063
投資活動によるキャッシュフロー	△ 1,889	△ 112
フリーキャッシュフロー	△ 936	951
財務活動によるキャッシュフロー	△ 634	8,507
キャッシュフロー増減額	△ 1,605	9,493
現金及び現金同等物の期末残高	2,100	11,585

注: 1年未満に満期が到来する長期性預金(前期163・今期34百万円)については上記キャッシュ・フローには含めておりません。

為替マリーの状況 -YTD-

- 為替が1円円高になった場合の営業利益影響額は約3.6百万円増益
- 為替感応度は約0.2%



- 取引通貨の7割はJPY
- USDは為替マリーを実現

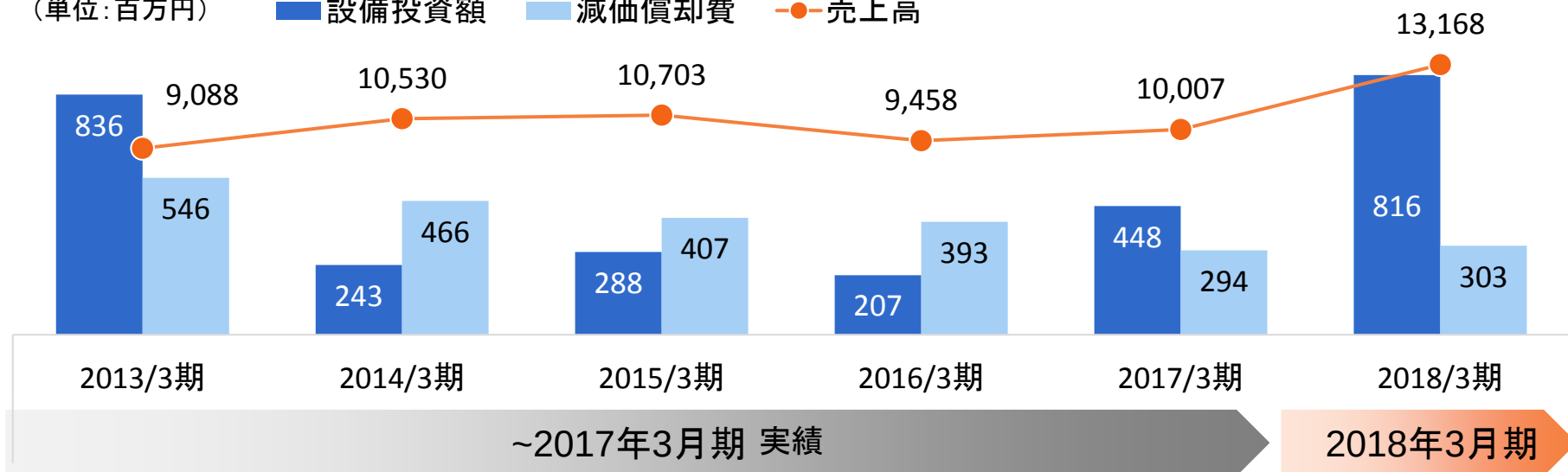
設備投資及び減価償却費 年度別推移

	2013/3期	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期
(単位:百万円)	連結	連結	連結	連結	連結	連結
売上高	9,088	10,530	10,703	9,458	10,007	13,168
設備投資額	836	243	288	207	448	816
構成比%)	9.2%	2.3%	2.7%	2.2%	4.5%	6.2%
減価償却費	546	466	407	393	294	303
構成比%)	6.0%	4.4%	3.8%	4.2%	2.9%	2.3%

売上高及び設備投資・減価償却費の年度推移

(単位:百万円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費 ● 売上高



MAVY's ~企業価値向上に向けた取組~

- 管理部門にとどまらず、現場にまで企業価値向上の目標数値を落とし込む

MAVY's とは (ROIC - WACC)

M aximizing A dded V alue of Y amashin Filter S pread

投下資本の利潤最大化を目指し、各責任部署が(KPI)を設定し
業務に取り組む(KSF)ための最重要指標(KGI)

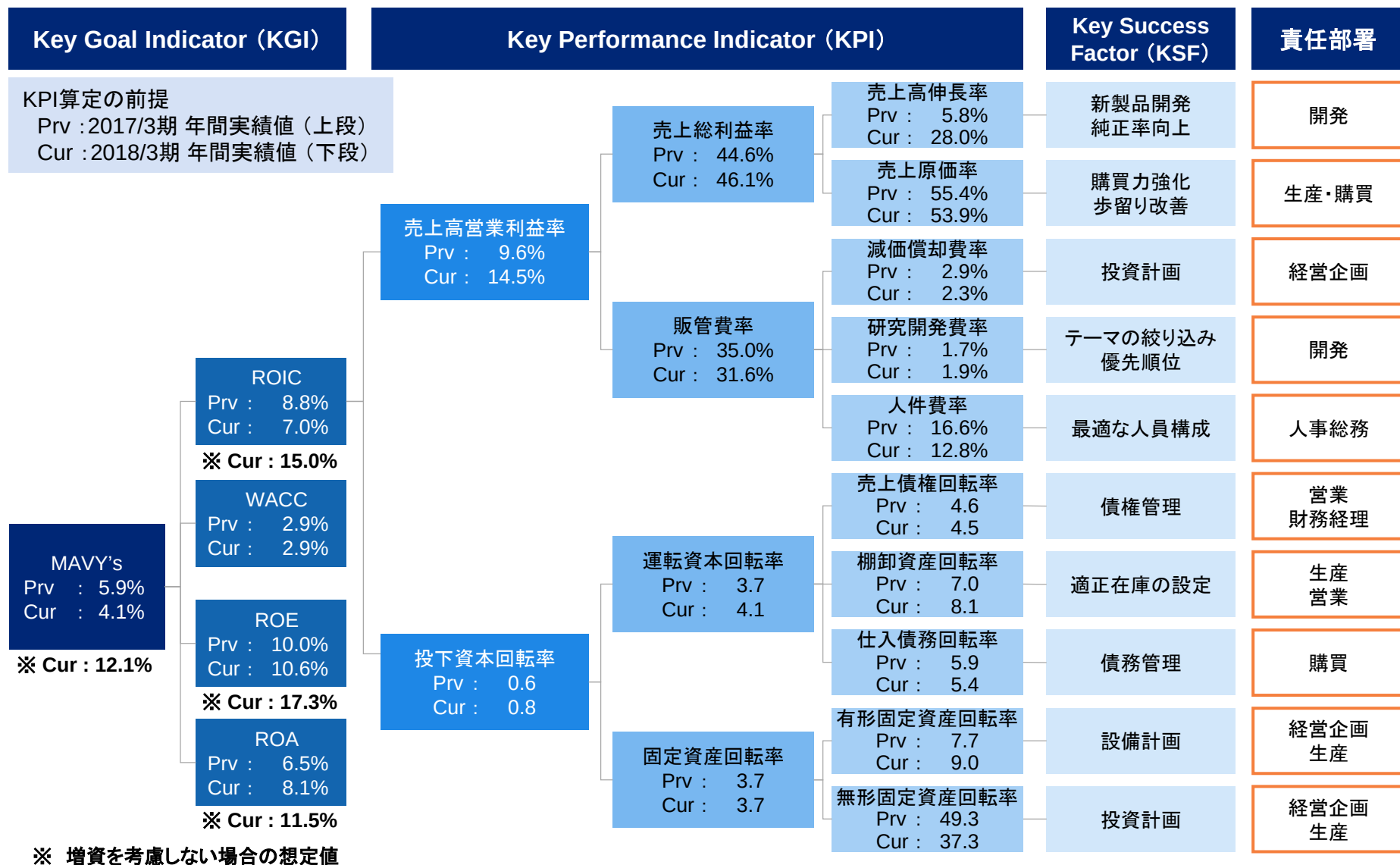


MAVY's
スプレッド拡大により
ステークホルダーの期待に応える。



各指標に対して、担当部署を割り
振り、各KPIを設定して目標達成に
向けた業務運営を全社にて行う。

MAVY's の全体像と責任部署



2. 2019年3月期 通期計画



前提条件

市場の見通し

引き続き堅調に推移
18.3月期の新車需要を上回る想定

為替の前提

18.3期実績 1ドル 111円
19.3期想定 1ドル 110円
為替マリーによってリスクをヘッジ

補給品の動向

国内・中国・北米・アジアで好調を維持
稼働時間増加により売上増を見込む

2019年3月期 通期業績予想

- 各国の堅調なインフラ投資継続により、増収見込み
- 全社プロジェクト「PAC18」による原価削減実施により、増益見込み

	2017/3期 実績	2018/3期 実績	2019/3期 見通し	19/3期見通し 対 18/3期実績比
(単位:百万円)	金額	金額	金額	%
売上高	10,007	13,168	14,000	6.3%
売上総利益	4,463	6,074	6,740	11.0%
売上総利益率	44.6%	46.1%	48.1%	2.0P
販売管理費	3,505	4,163	4,390	5.4%
販管比率	35.0%	31.6%	31.4%	△0.3P
営業利益	957	1,910	2,350	23.0%
営業利益率	9.6%	14.5%	16.8%	2.3P
経常利益	934	1,824	2,340	28.3%
経常利益率	9.3%	13.9%	16.7%	2.9P
当期純利益	640	1,249	1,600	28.0%
純利益率	6.4%	9.5%	11.4%	1.9P
為替レート AR USD	108.4	110.9	110.0	△0.8%
EUR	118.8	129.7	135.0	4.1%

セグメント情報(製品別)見通し

	2018/3期 実績			2019/3期 見通し			増減		
	数量 (千本)	金額 (百万円)	構成比 (%)	数量 (千本)	金額 (百万円)	構成比 (%)	数量 (千本)	金額 (百万円)	増減率 (%)
建機用フィルタ	5,885	11,768	89.4%	6,187	12,564	89.7%	301	795	6.8%
ライン品	2,545	5,342	40.6%	2,646	5,567	39.8%	100	224	4.2%
補給品	3,339	6,425	48.8%	3,541	6,996	50.0%	201	571	8.9%
産業用フィルタ	214	526	4.0%	256	537	3.8%	41	10	2.0%
プロセス用フィルタ	271	873	6.6%	284	898	6.5%	12	25	2.9%
売上高合計	6,372	13,168	100.0%	6,728	14,000	100.0%	355	831	6.3%

セグメント情報(地域別)見通し

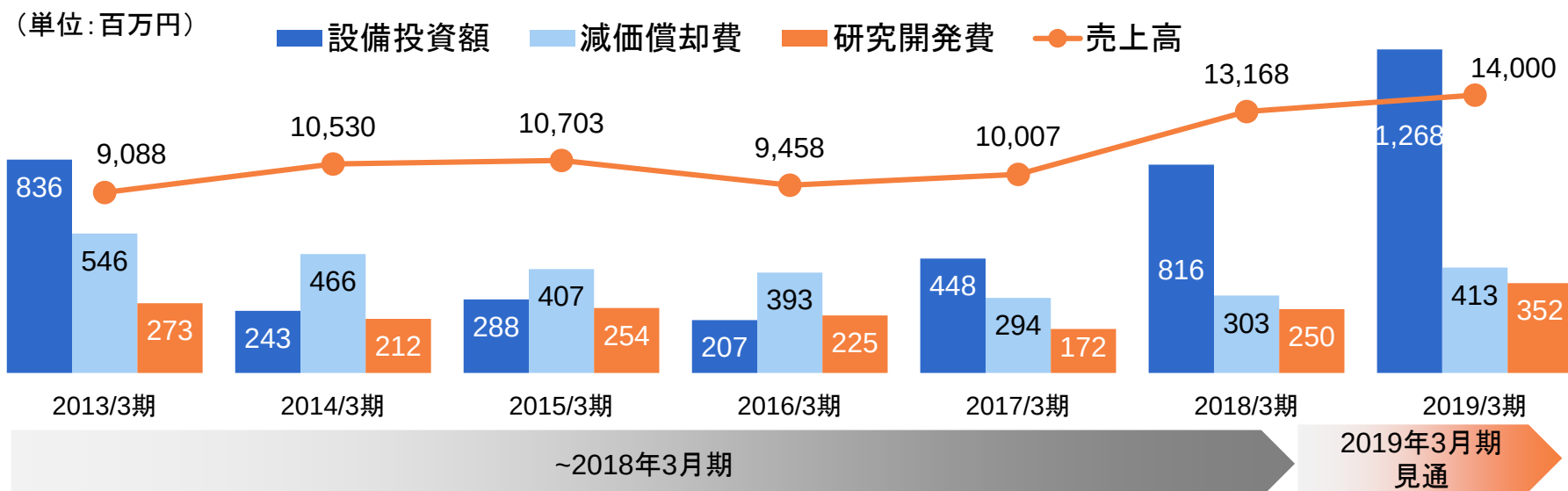
	2018/3期 実績			2019/3期 見通し			増減		
	数量 (千本)	金額 (百万円)	構成比 (%)	数量 (千本)	金額 (百万円)	構成比 (%)	数量 (千本)	金額 (百万円)	増減率 (%)
国内	3,306	6,443	48.9%	3,427	6,545	46.8%	120	101	1.6%
北米	1,016	2,201	16.7%	1,117	2,468	17.6%	101	267	12.1%
中国	807	1,753	13.3%	861	2,149	15.4%	54	396	22.6%
アジア	713	1,522	11.6%	818	1,771	12.7%	104	248	16.3%
欧州	502	1,204	9.2%	501	1,064	7.5%	△ 0	△ 139	△11.6%
その他(中東他)	26	42	0.3%	1	0	0.0%	△ 24	△ 42	△100.0%
売上高合計	6,372	13,168	100.0%	6,728	14,000	100.0%	355	831	6.3%

(注) 当社の請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます

設備投資、減価償却費及び研究開発費年度別推移

(単位:百万円)	2013/3期	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	通期見通
売上高	9,088	10,530	10,703	9,458	10,007	13,168	14,000
設備投資額	836	243	288	207	448	816	1,268
構成比%)	9.2%	2.3%	2.7%	2.2%	4.5%	6.2%	9.1%
減価償却費	546	466	407	393	294	303	413
構成比%)	6.0%	4.4%	3.8%	4.2%	2.9%	2.3%	3.0%
研究開発費	273	212	254	225	172	250	352
構成比%)	3.0%	2.0%	2.4%	2.4%	1.7%	1.9%	2.5%

売上高及び設備投資・減価償却費の年度推移



売上拡大に向けての取り組み

~次世代モデルへの搭載を見据えた提案型営業の深耕~



建機市場を取り巻く外部環境の総括

1年前

現状

今後の見通し

中国

- 不動産投資鈍化により大幅な減産

- 公共投資による景気下支えのため、需要は大幅に増加

- 「一帯一路」政策の下、継続した需要増加を見込む

北米

- エネルギー関連投資の低迷を受け減産

- インフラ投資により、需要回復

- 資源エネルギー開発・インフラ投資の進行のなか、更なる需要増を見込む

日本

- 排ガス規制駆け込み需要の反動

- 堅調な国内インフラ投資により需要増加

- 堅調な国内インフラ投資を背景に、需要増を見込む

欧州

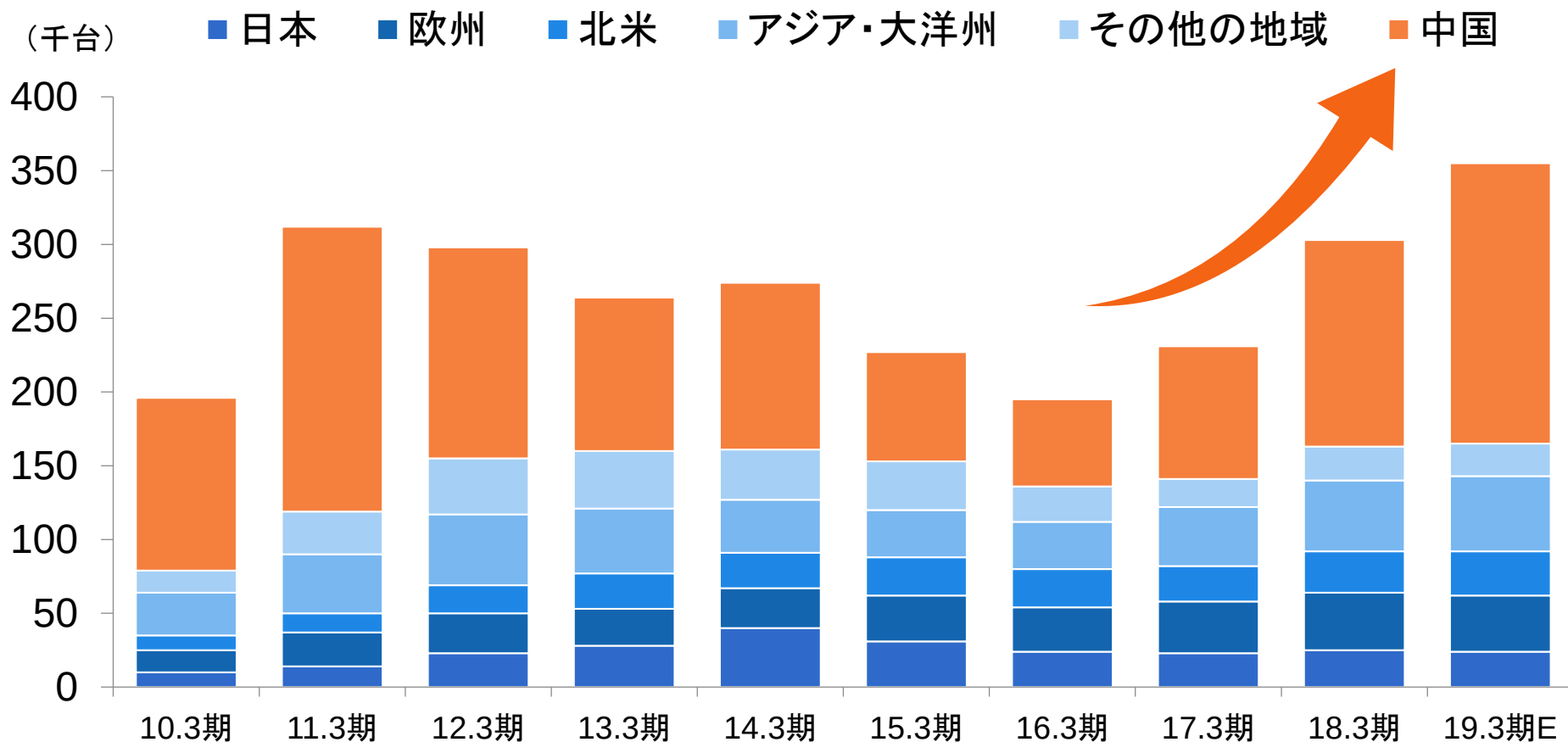
- 軟調に推移

- ドイツをはじめとした主要国の需要増加

- 引き続き堅調な需要を見込む

事業環境/①油圧ショベル新車需要

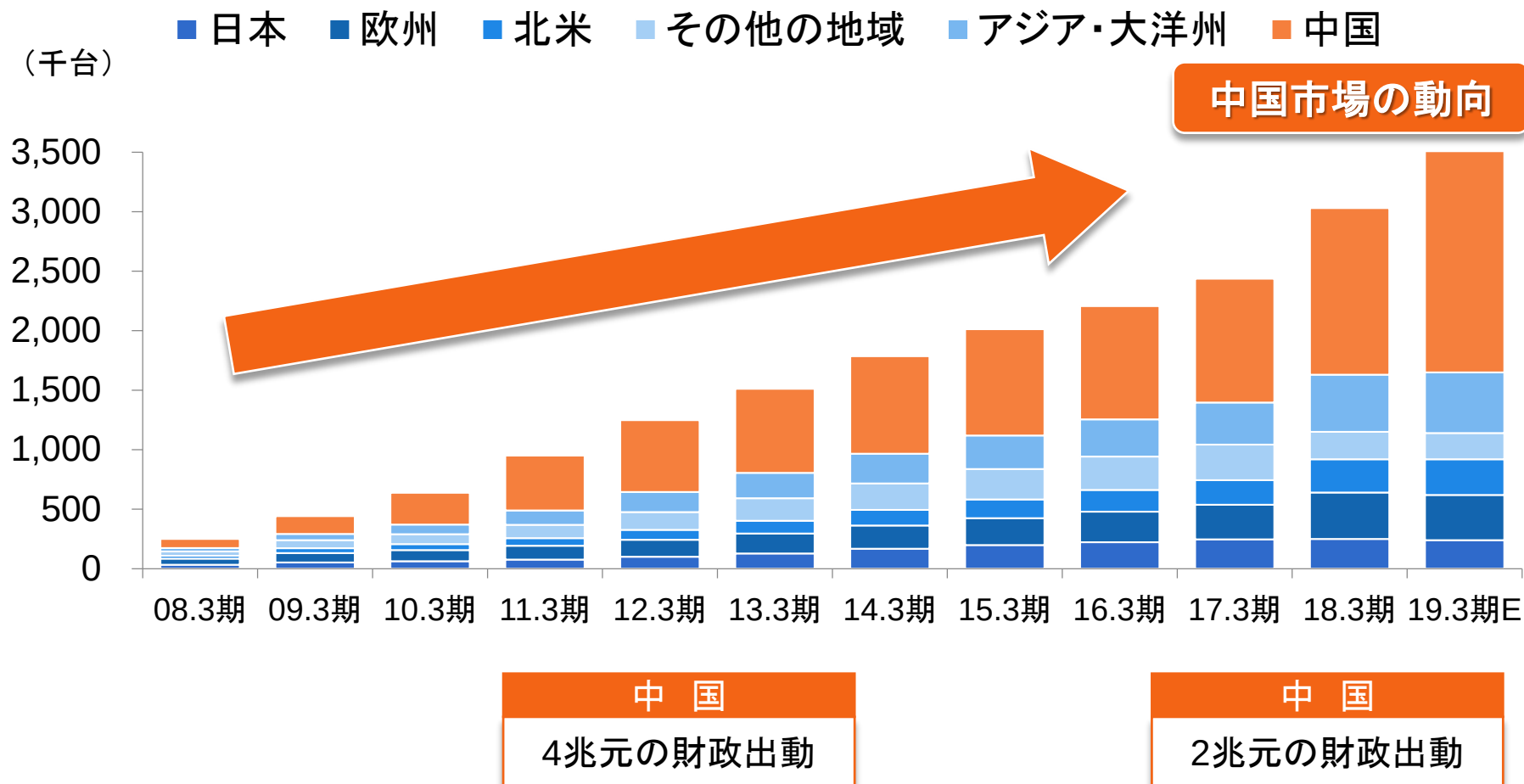
■ 建機市場は、インフラ整備の投資拡大により持続的な成長が見込まれる



(各建機メーカーおよび工業会公表データより当社推計)

事業環境/②新車販売累積台数

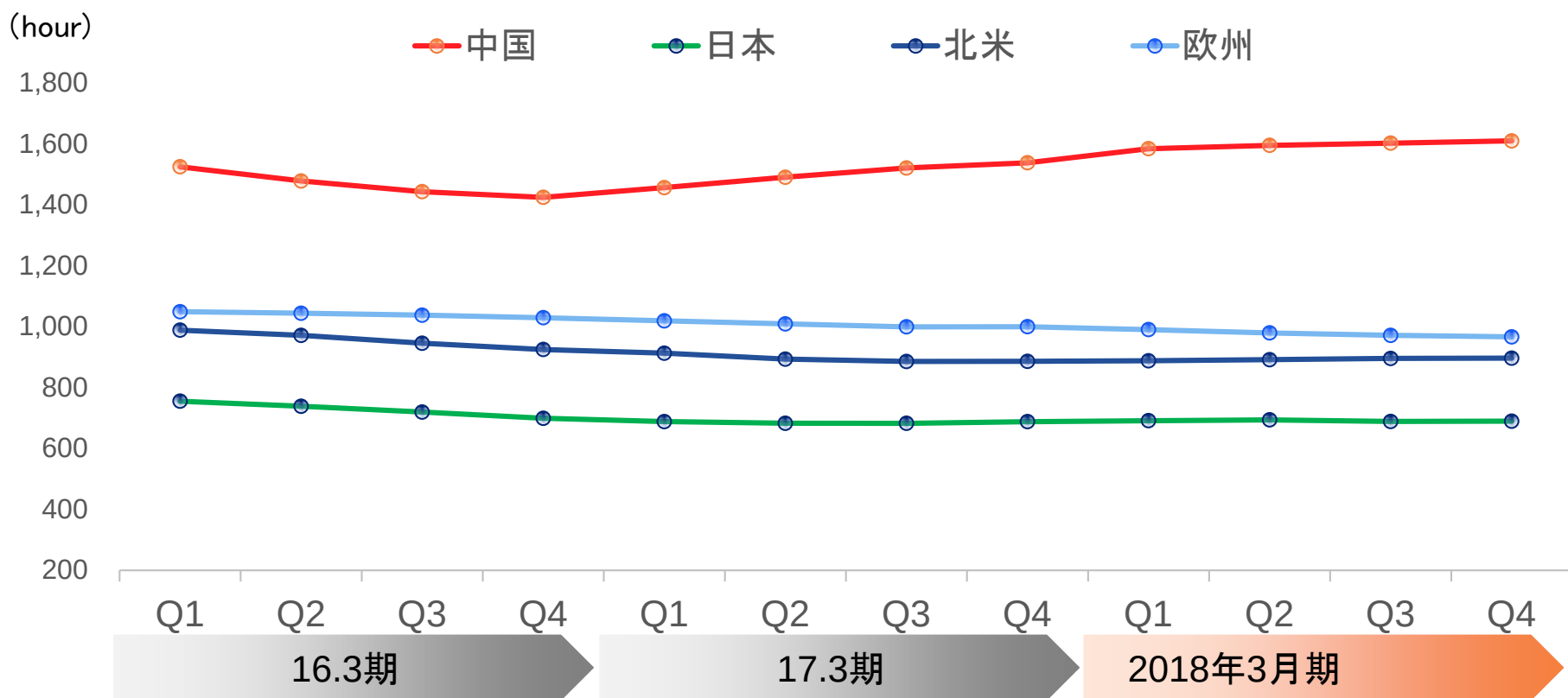
■ 「一帯一路」政策の下、中国を牽引役としアジア市場の成長が活発化



事業環境/③建機稼働時間

■ 「一帯一路」に絡むインフラ投資の拡大が建機需要を改めて喚起する見通し

建機1台あたり稼働時間推移(年計)

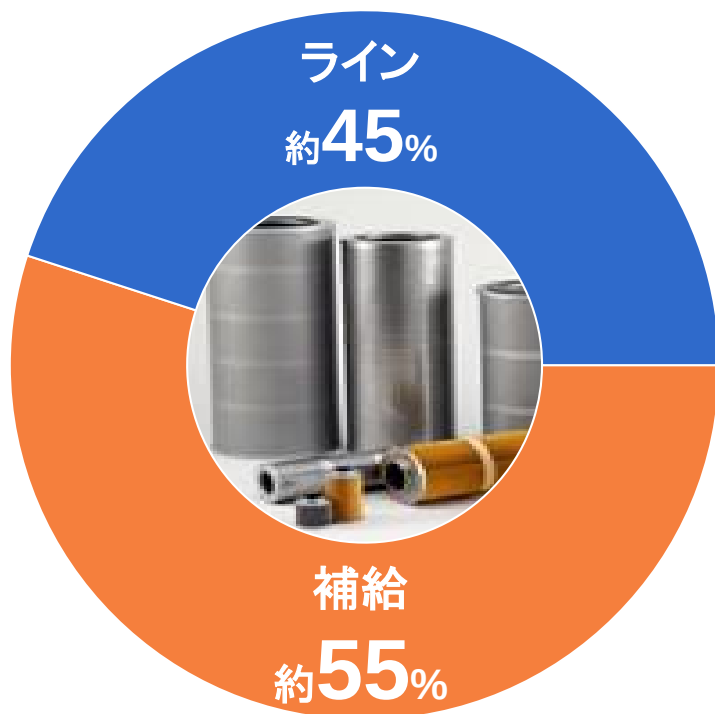


出所: 野村証券アナリストレポートをもとに当社作成

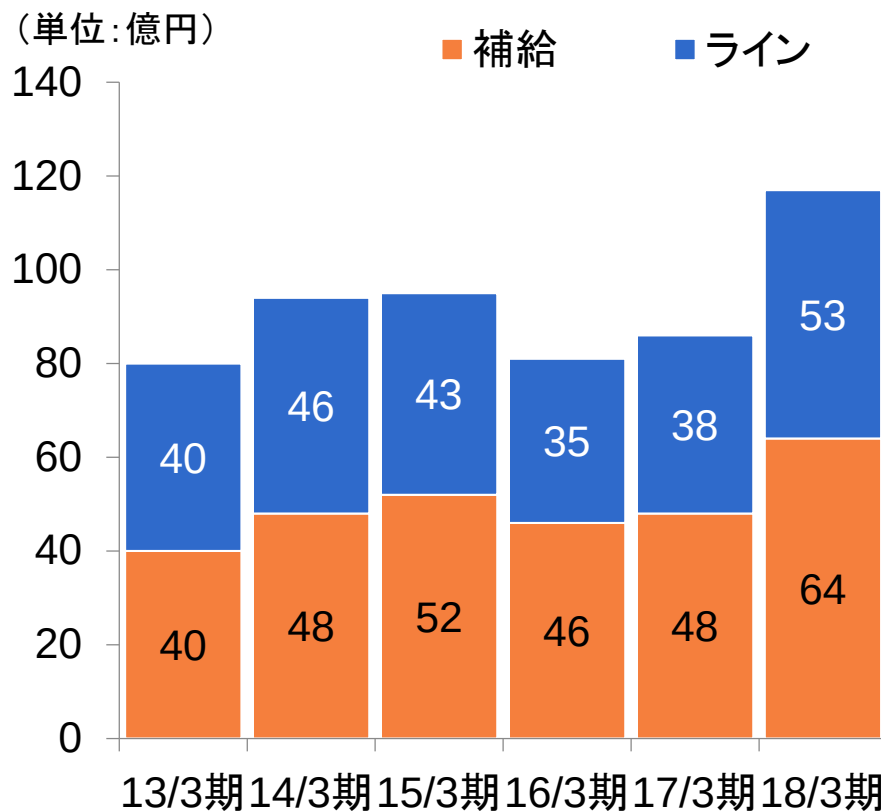
補給品需要

- 補給はストックモデル
- 建機の稼働台数の蓄積により、安定した需要拡大が見込める

18.3期 建機用フィルタ 売上構成



補給・ラインの売上高推移



売上高伸長率：開発力強化及び純正率向上

		対応方針のKeyword	効果検証
建機 フィルタ	ライン品	故障予知、ICT技術の提案	実機データ収集段階 新規顧客獲得
		新素材を使ったリターン フィルタの提案	実機試験段階から量産段階へ
		中国建機メーカへの拡販	新ろ材のフィルタの提案
	補給品	セミナー展開によって 非純正品からのシェア奪回	市場の特性に合わせた マーケティング活動を順次展開
産業 フィルタ		パートナーとの協力体制強化 新素材を活用した新規事業を検討	製品ラインナップの拡充・強化
プロセス フィルタ		製品シリーズの 多様化・多品種化	ラインナップ拡充に向けた開発 新規パートナーとの協業に着手、 OEMビジネスを計画

当社の中期的な方針

~事業ポートフォリオの拡大と
筋肉質な企業体質への進化~



はじめに...

「屋根を直すとしたら、よく晴れた日に限る」(J.F.ケネディ)
“The time to repair the roof is when the sun is shining”



63期の売上高は対前年30%増・利益も2倍増
好調なときこそ次のステージへの準備を確実に

写真:アマナ

成長に向けた取り組み

建機市場は今後3～5年間は堅調推移
100億の資金を元手に目標達成に向け積極的に挑戦

事業ポートフォリオの 拡大

建機向け油圧フィルタに依存しない
次の成長の柱を育てていく

【3本の柱】
建機フィルタ
プロセス・産業フィルタ
新素材の展開

筋肉質な企業体質の構築

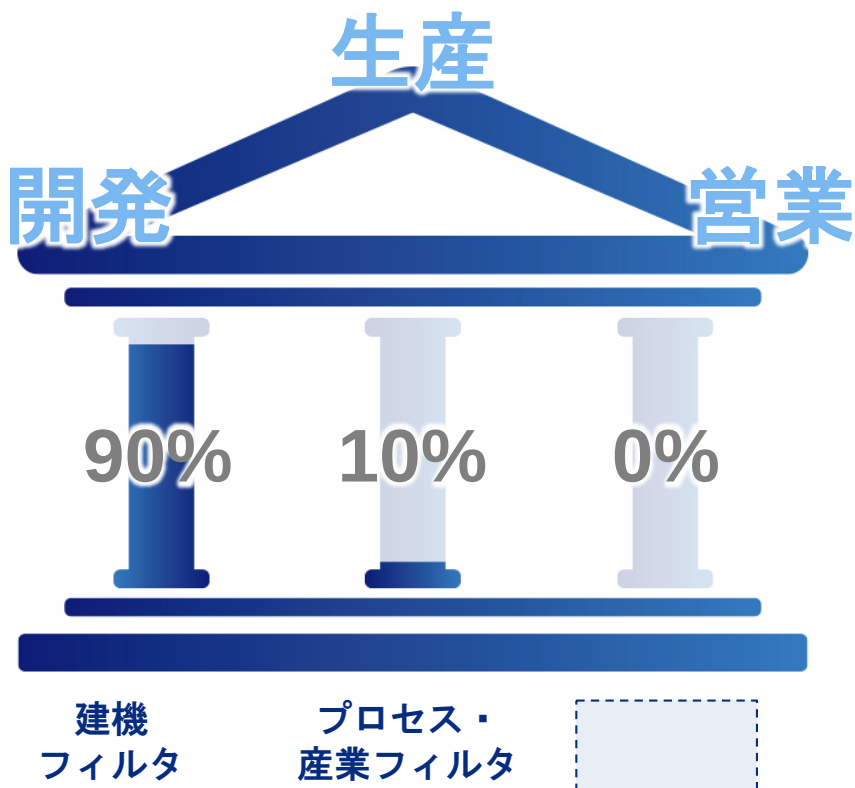
Multipleな生産体制構築
グローバル・サプライチェーン再構築

PAC18によるコスト低減
R&D拠点向けの大型投資計画
主要マーケットでの生産拠点開設投資

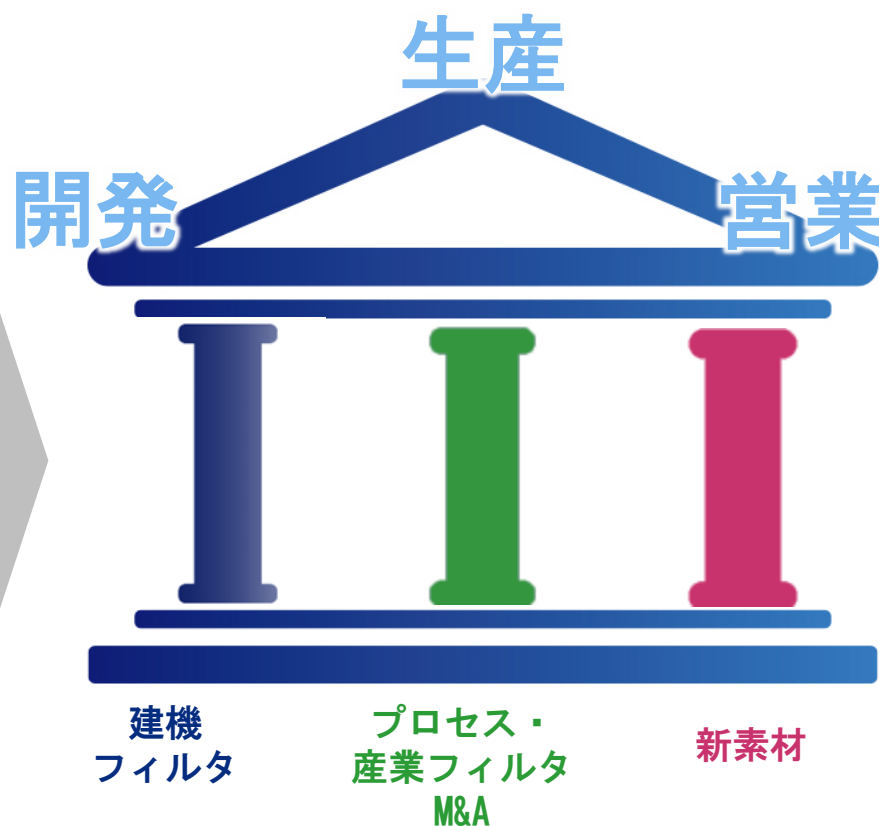
事業ポートフォリオの拡大 – “Rooftop Repair ①”

- 現在の売上高は建機向けフィルタが9割を占める
- 業績が好調な今こそ、次の成長の柱を育てていく

三本の柱(現在)



三本の柱(目標)



1. ポートフォリオ拡大に向けて



当社が目指すもの - ナノファイバー

■ 当社が目指す「総合フィルタメーカー」 - Yamashin Paradigm Shift



当社が目指すもの — IoT ①

油圧・潤滑装置の清浄度検査の未来

ICTとさまざまな産業のIoT化を支える。

建設機械を中心に製品を提供してきたヤマシンフィルタですが、「SWIFTROCK™」はあらゆる産業分野への活用が可能です。

労働人口の減少によって、よりスマートで、生産性の高い環境を整備することが求められています。

いつでも、どこにいても、リアルタイムで装置の状況を把握できる。

その機能を通じて、あらゆる産業における「IoT化」や「スマートファクトリーの実現」を支えていきます。



製鉄所



建設機械



製紙工場



発電所



風力・水力発電所



工作機械



航空機

当社が目指すもの ― IoT ②

- 油圧作動油・潤滑油の清浄度センサ
- 今後、新素材を基にしたアプリケーションの開発に取り組んでいく
- 次世代搭載を検討、実機試験スタート



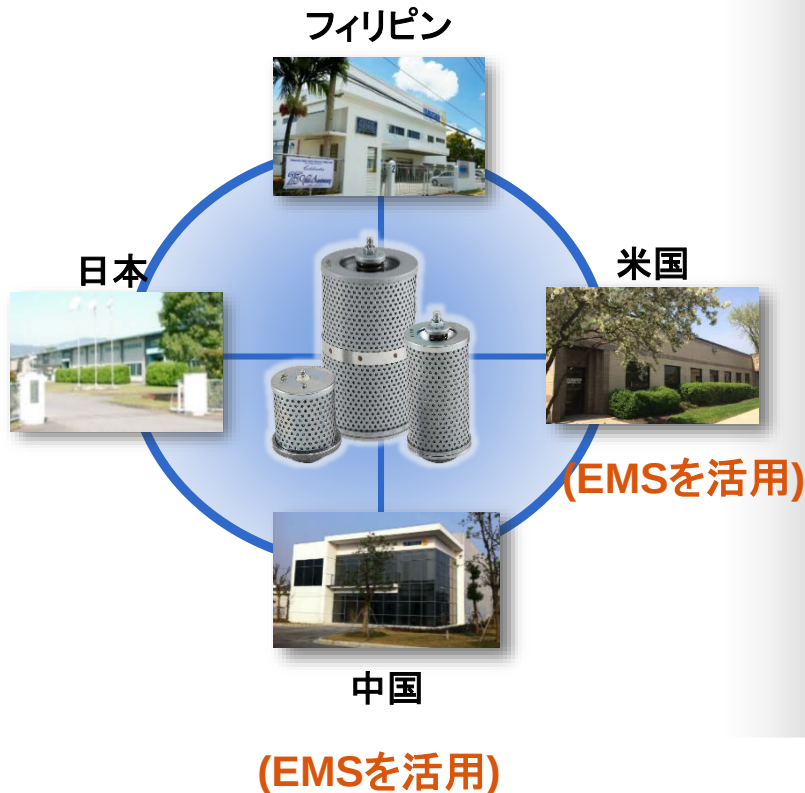
2. 筋肉質な企業体質の構築



生産拠点見直し・再編 – “Rooftop Repair ②”

- 生産拠点の見直し・再編により、Multiple な生産体制の構築を実施
- 購買力を強化し、グローバル・サプライチェーンの再構築を実施

Multiple ソーシング



目的・Goal



クロスソーシング
生産体制の構築



顧客ニーズに
柔軟に応える

購買力強化



事業継続計画
(BCP)



購買力強化

■ サプライヤとの関係を強化

評価項目
(納期達成率、品質の高さ等)
に基づくサプライヤーの
整理・統合・選別・集中

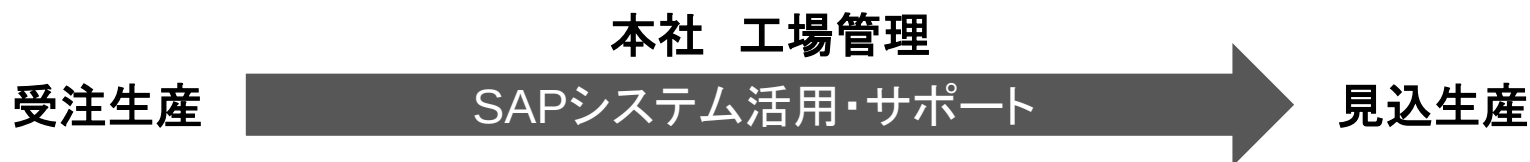


優良サプライヤーとの
関係構築



Win-Win
原価低減・収益性の改善

■ SAP活用:標準原価制度導入により原価改善実施



■ IoTの実用化: Smart factory化の実現

第一段階:電力量管理を実施し、原価低減につなげる

第二段階:生産計画/出来高のクラウド管理によるスマート化

開発の強化

- 現在の開発センタは既存事業向けの開発が中心
- ポートフォリオの拡大には開発の強化=新しい開発拠点が必要



横浜開発センタ



佐賀事業所



横須賀メディアラボ



既存拠点を包括する
新たな開発拠点
を設置

既存分野



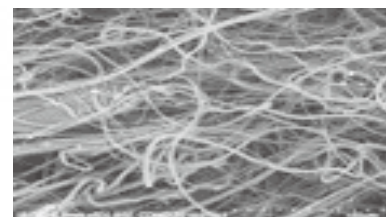
建機油圧フィルタ



新たな分野



産業/プロセスフィルタ



ナノファイバー

PAC18

- 生産技術・管理・システムの総合的な改善を実施し、利益体制の強化を図る

PAC18

Promptly
迅速

Activated
かつ効果的な

Cost reduction
コスト削減計画

20**18**

背景

科目

アクション
プラン

削減
目標額

市場の低迷
売上減少

製造原価

生産の効率化
サプライチェーン
強化等

3.2億円

販売管理費

営業経費、
管理費の削減

0.5億円

株主還元

■ 中間配当7円、期末配当11円の年間18円に増配(分割前基準)

		17.3期	18.3期	19.3期E
1株当たり 配当金	分割前基準	12円	(18円) ※1	(25円)※2
	分割後基準	—	— ※1	5円
DOE		2.3%	1.9%	1.9%
総還元性向※3		25.6%	21.6%	23.8%

※1. 2017年12月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しており、2018年3月期の配当金額は、株式分割前の金額で記載しております。(期末配当11円 分割後2.2円)

※2. 2019年3月期の配当予想額について、参考値として、上記株式分割前の金額を記載しております。

※3. 総還元性向=(配当総額+自己株式取得+株主優待)÷当期純利益

本日の決算説明会のまとめ

18年3月期 実績

- 市場環境は想定通り堅調
- 本業となる油圧フィルタ事業に死角なし

売上拡大に向けて の取り組み

- 次世代モデルへの搭載を見据えた
提案型営業の深耕

当社の中期的な 方針

- 事業ポートフォリオの拡大と筋肉質な
企業体質への進化

参考資料



当社決算を理解する上でのポイント

当社決算の特徴

セグメント と KPI

- 建機用フィルタは「ライン品」と「補給品」にわかれる
- ライン品は新車搭載用のフィルタ
 - ◆ 重要指標は、「新車需要台数」
- 補給品は交換部品用のフィルタ
 - ◆ 重要指標は、「稼働台数」×「稼働時間」

販売形態 地域別動向 コスト削減

- 販売形態
 - ◆ 建機用フィルタの売上は、建機メーカーへの直接販売
エンドユーザへの直販は基本的に行っていない
- 地域別動向
 - ◆ 地域別売上高は参考値。当社請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と異なる
- PAC18 (Promptly Activated Cost reduction 2018)
 - ◆ 全社的なコスト削減プロジェクト

MAVY's の分解図: 補足

用語	計算式
MAVY's	ROIC - WACC
ROIC	$\text{NOPAT} \div \text{投下資本}$
投下資本利益率	$(\text{経常利益} + \text{支払利息}) \div \text{投下資本}$
運転資本回転率	$\text{売上高} \div (\text{売上債権} + \text{棚卸資産} - \text{仕入債務})$
固定資産回転率	$\text{売上高} \div \text{固定資産}$
売上債権回転率	$\text{売上高} \div \text{売上債権}$
棚卸資産回転率	$\text{売上高} \div \text{棚卸資産}$
仕入債務回転率	$\text{売上原価} \div \text{仕入債務}$
有形固定資産回転率	$\text{売上高} \div \text{有形固定資産}$
無形固定資産回転率	$\text{売上高} \div \text{無形固定資産}$

※貸借対照表項目について期首期末平均で計算しております。

為替マリーの状況 -YTD-

Currency	Inflow			Outflow			Net	期中 平均レ ート(JPY)	円高ケース(10%)			円安ケース(10%)		
	各通貨	円換算	構成比	各通貨	円換算	構成比	各通貨		期中平均 レート ▲10% (JPY)	レート 差額	影響額 (YTD)	期中平均 レート +10% (JPY)	レート 差額	影響額 (YTD)
JPY	¥15,100.0	¥15,100.0	74%	¥13,165.1	¥13,165.1	68%	¥1,934.9	-	-	-	-	-	-	-
USD	\$41.2	¥4,567.5	22%	\$40.0	¥4,434.5	23%	\$1.2	¥110.9	¥99.78	¥-11.09	¥-13.30	¥121.95	¥11.09	¥13.30
EUR	€ 5.2	¥674.5	3%	€ 3.3	¥428.1	2%	€ 1.9	¥129.7	¥116.74	¥-12.97	¥-24.65	¥142.69	¥12.97	¥24.65
PHP	PP0.0	¥0.0	0%	PP406.6	¥1,365.8	7%	PP-406.6	¥3.4	¥3.02	¥-0.34	¥136.58	¥3.70	¥0.34	¥-136.58
THB	฿65.00	¥142.2	1%	฿23.30	¥51.0	0%	฿41.70	¥2.2	¥1.97	¥-0.22	¥-9.12	¥2.41	¥0.22	¥9.12
Total	-	¥20,484.2	100%	-	¥19,444.4	100%	-	-	-	-	¥89.51	-	-	¥-89.51

※今期 期中平均レートは、4月~3月の12か月間の平均レートを使用

2018年3月期 第4四半期サマリ

(単位: 百万円)

	2017/3期 実績	2018/3期 実績	増減	
	第4四半期	第4四半期	金額	%
売上高	2,803	3,542	739	26.4%
営業利益	250	388	138	55.1%
営業利益率	8.9%	11.0%	2.0P	
経常利益	259	347	88	33.9%
経常利益率	9.3%	9.8%	0.6P	
当期純利益	168	273	104	61.9%
純利益率	6.0%	7.7%	1.7P	

為替レート AR USD	113.6	108.3	△ 5.3	△4.7%
EUR	121.1	133.2	12.2	10.0%

セグメント情報（製品別）第4四半期

	2017/3期 実績 第4四半期			2018/3期 実績 第4四半期			増減		
	数量 (千本)	金額 (百万円)	%	数量 (千本)	金額 (百万円)	%	数量 (千本)	金額 (百万円)	%
建機用フィルタ	1,134	2,449	87.4%	1,838	3,224	91.0%	703	774	31.6%
ライン品	494	1,152	41.1%	888	1,557	44.0%	393	405	35.2%
補給品	640	1,297	46.3%	950	1,666	47.0%	309	368	28.4%
産業用フィルタ	45	145	5.2%	58	119	3.4%	12	△ 25	△17.8%
プロセス用フィルタ	62	208	7.4%	64	199	5.6%	1	△ 9	△4.6%
売上高合計	1,243	2,803	100.0%	1,961	3,542	100.0%	718	739	26.4%

セグメント情報(地域別) 第4四半期

	2017/3期 実績 第4四半期			2018/3期 実績 第4四半期			増減		
	数量 (千本)	金額 (百万円)	%	数量 (千本)	金額 (百万円)	%	数量 (千本)	金額 (百万円)	%
国内	697	1,411	50.4%	844	1,621	45.8%	146	209	14.8%
北米	171	463	16.5%	367	583	16.5%	195	119	25.9%
中国	109	366	13.1%	430	612	17.3%	320	246	67.2%
アジア	168	361	12.9%	179	392	11.1%	11	30	8.4%
欧州	93	225	8.0%	140	337	9.5%	47	111	49.6%
その他(中東他)	2	△ 25	△0.9%	0	△ 4	△0.0%	△ 2	21	△83.1%
売上高合計	1,243	2,803	100.0%	1,961	3,542	100.0%	718	739	26.4%

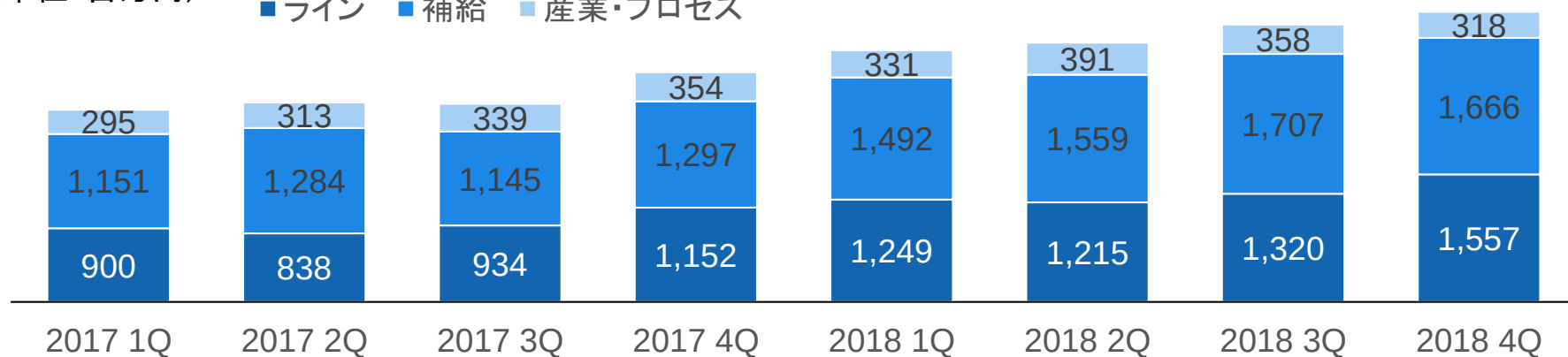
※地域別売上は、当社の請求書送付先である法人の所在地を集計しております。

四半期別売上高推移(セグメント別)

(単位:百万円)	2017年3月期				2018年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
建機用フィルタ	2,052	2,122	2,080	2,449	2,741	2,775	3,027	3,224
ライン品	900	838	934	1,152	1,249	1,215	1,320	1,557
補給品	1,151	1,284	1,145	1,297	1,492	1,559	1,707	1,666
産業用・プロセス用フィルタ	295	313	339	354	331	391	358	318
合計	2,347	2,436	2,419	2,803	3,072	3,166	3,385	3,542

(単位:百万円)

■ ライン ■ 補給 ■ 産業・プロセス



2017年3月期

2018年3月期

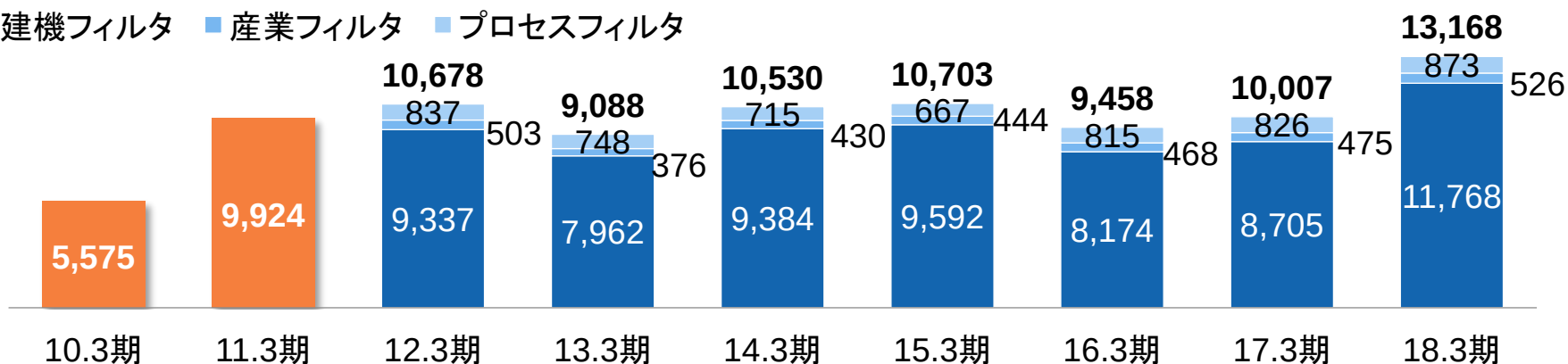
※連結調整項目は建機用フィルタに含めて表示しております。(有価証券報告書開示基準)

財務ハイライト①

売上高

(単位:百万円)

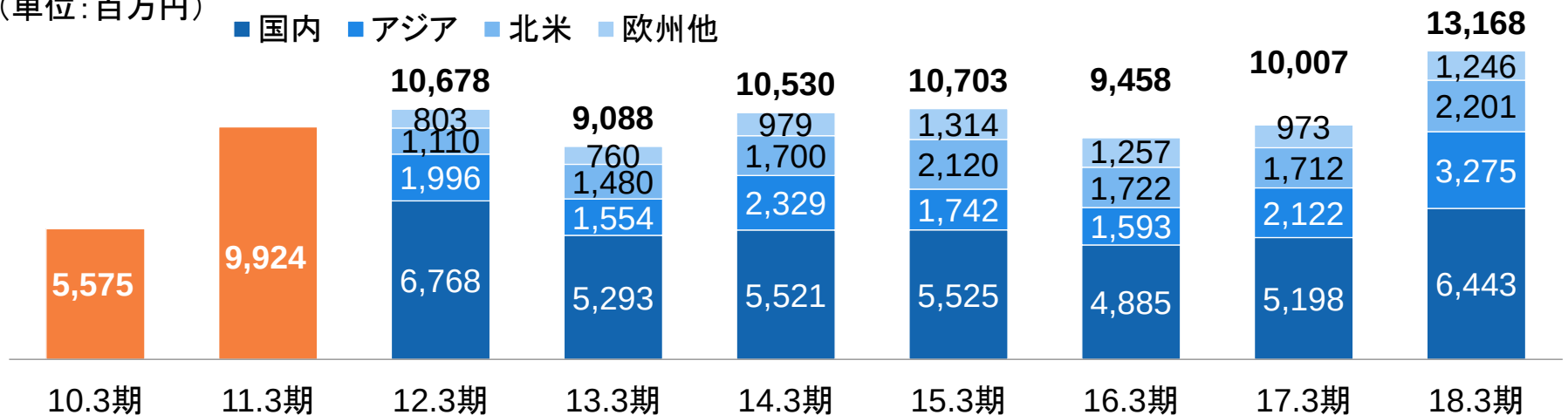
■ 建機フィルタ ■ 産業フィルタ ■ プロセスフィルタ



地域別売上高

(単位:百万円)

■ 国内 ■ アジア ■ 北米 ■ 欧州他

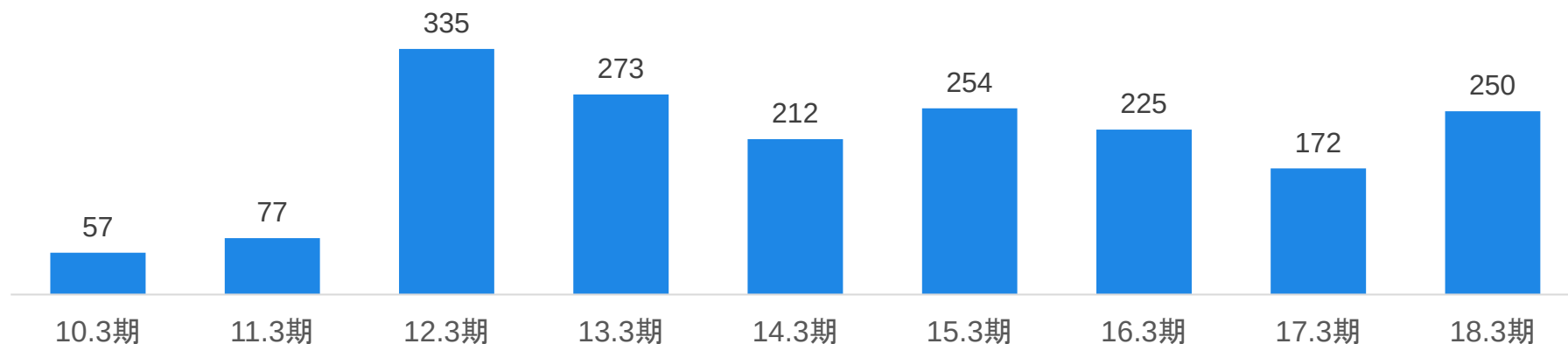


※12.3期までは単体、13.3期以降は連結。 ※地域別売上集計方法変更に伴い15.3期の金額内訳が変更になっております

財務ハイライト②

研究開発費

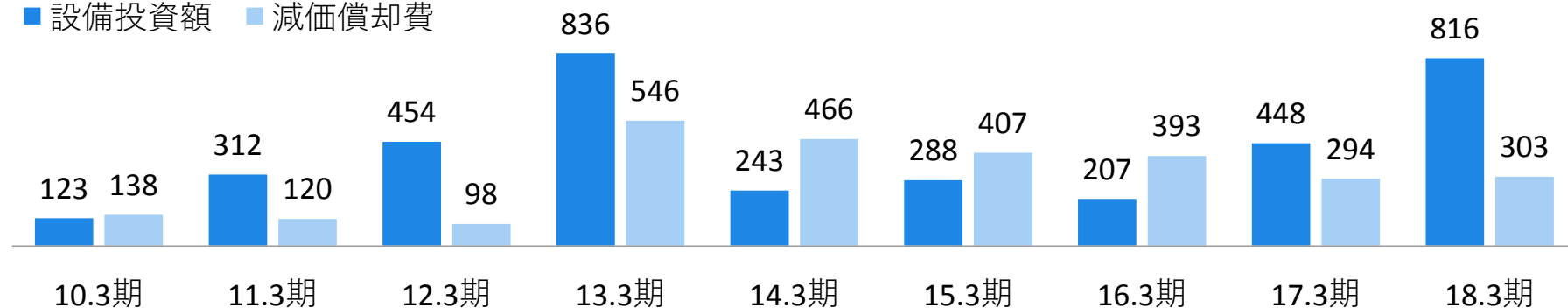
(単位:百万円)



設備投資および減価償却費

(単位:百万円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



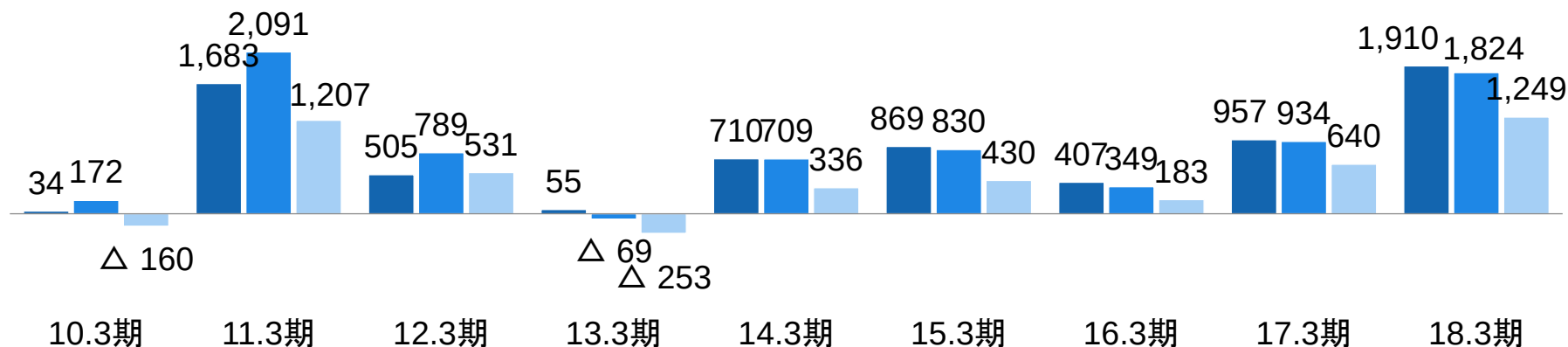
※12.3期までは単体、13.3期以降は連結

© YAMASHIN-FILTER CORP., All rights reserved.

財務ハイライト③

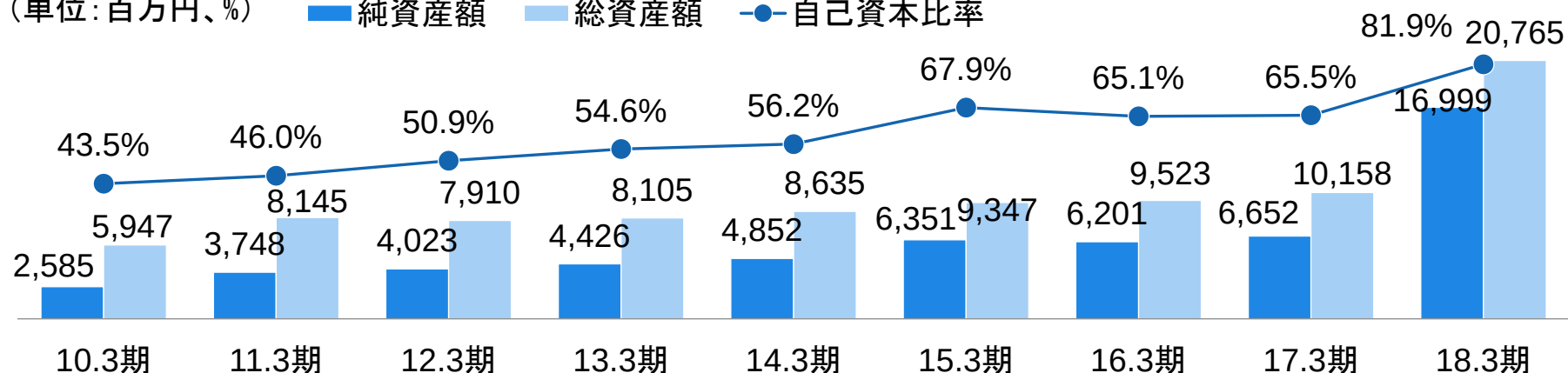
利益

(単位:百万円) ■ 営業利益 ■ 経常利益 ■ 当期純利益



純資産および総資産、自己資本比率

(単位:百万円、%) ■ 純資産額 ■ 総資産額 ● 自己資本比率



※12.3期までは単体、13.3期以降は連結

この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは
ヤマシンフィルタ株式会社 経営企画室まで

TEL(045-680-1680)
E-mail: ir@yamashin-filter.co.jp